

## 再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

<b>事業名</b>	一般国道29号 <small>ひめじきた</small> 姫路北バイパス	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 近畿地方整備局												
<b>起終点</b>	自：兵庫県姫路市相野 至：兵庫県姫路市林田町六九谷	<b>延長</b>	6.2km														
<b>事業概要</b>	一般国道29号は、兵庫県姫路市と鳥取県鳥取市を結び、播磨地域の南北方向の交通流動を受け持つ延長約120kmの主要幹線道路である。姫路北バイパスは、一般国道29号に平行する延長6.2kmのバイパスとして、姫路北部地域から姫路市中心部、山陽自動車道姫路西インターへのアクセス強化により地域活性化を図るとともに、一般国道29号の交通混雑の解消や、交通安全対策、沿道環境の改善等を目的に計画された道路である。																
<b>H2年度事業化</b>	H2年度都市計画決定	<b>H8年度用地着手</b>	H14年度工事着手														
<b>全体事業費</b>	250億円	<b>事業進捗率</b>	約40%	<b>供用済延長</b>	0.0km												
<b>計画交通量</b>	13,300～33,300台/日																
<b>費用対効果分析結果</b>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"><b>B/C</b></td> <td style="width: 20%;">(事業全体) 1.6</td> <td style="width: 20%;"><b>総費用</b></td> <td style="width: 20%;">(残事業)/(事業全体) 118/244億円</td> <td style="width: 20%;"><b>総便益</b></td> <td style="width: 20%;">(残事業)/(事業全体) 396/396億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(残事業) 3.4</td> <td></td> <td>                     (事業費：100/225億円)                      (維持管理費：18/18億円)                 </td> <td></td> <td>                     (走行時間短縮便益：378/378億円)                      (走行経費減少便益：16/16億円)                      (交通事故減少便益：1.1/1.1億円)                 </td> </tr> </table>	<b>B/C</b>	(事業全体) 1.6	<b>総費用</b>	(残事業)/(事業全体) 118/244億円	<b>総便益</b>	(残事業)/(事業全体) 396/396億円		(残事業) 3.4		(事業費：100/225億円) (維持管理費：18/18億円)		(走行時間短縮便益：378/378億円) (走行経費減少便益：16/16億円) (交通事故減少便益：1.1/1.1億円)	<b>基準年</b>	平成21年		
<b>B/C</b>	(事業全体) 1.6	<b>総費用</b>	(残事業)/(事業全体) 118/244億円	<b>総便益</b>	(残事業)/(事業全体) 396/396億円												
	(残事業) 3.4		(事業費：100/225億円) (維持管理費：18/18億円)		(走行時間短縮便益：378/378億円) (走行経費減少便益：16/16億円) (交通事故減少便益：1.1/1.1億円)												
<b>感度分析の結果</b>	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.7(交通量+10%) B/C=3.0(交通量-10%) 事業費変動：B/C=3.1(事業費+10%) B/C=3.7(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=3.0(事業期間+20%) B/C=3.8(事業期間-20%)																
<b>事業の効果等</b>	①沿道環境の改善 ・一般国道29号のバイパス並行区間は、昼間、夜間ともに騒音レベルが環境基準を超過。 (姫路市石倉：昼間71dB、夜間67dB) ②高度医療施設へのアクセス向上 ・宍粟市役所～第三次医療施設（兵庫県立姫路循環器病センター）の所要時間が短縮。 (89分→76分：13分短縮) ・兵庫県立姫路循環器病センターの30分圏域が拡大し、圏域人口が5千人増加。 ③新幹線駅である姫路駅へのアクセス向上 ・宍粟市役所～JR姫路駅の所要時間が短縮。(89分→76分：13分短縮) ④姫路港へのアクセス向上 ・宍粟市～姫路港の所要時間が短縮し、地場産業の木材業を支援。(91分→78分：13分短縮) (宍粟市の木材生産量は兵庫県内の約4割) ⑤主要観光地へのアクセス向上 ・沿線へのアクセス性向上により、観光客の増加が見込まれる。 (姫路城：観光入込客数：10,518千人/年) ⑥日常生活圏中心都市である姫路市へのアクセス向上 ・母都市姫路市の60分圏域が拡大。 ・宍粟市～姫路市の所要時間が短縮。(87分→74分：13分短縮)																
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>	地域から頂いた主な意見等： ・平成21年7月、国道29号改良及び姫路北バイパス建設促進協会(姫路市、たつの市、宍粟市、太子町の各町長、議長より構成)より早期整備の要望を受けている。																
<b>県知事の意見</b>	・一般国道29号姫路北バイパスは、県にとって重要な路線・区間の整備であり、対応方針(案)のとおり、事業継続が妥当と考えます。事業の早期完成に向け、平成22年度予算の確保をお願いします。 なお、事業実施にあたっては、コスト縮減を図るなど、効率性に配慮願います。																

事業評価監視委員会の意見	
審議の結果、「国道29号姫路北バイパス」の再評価は、事業評価監視委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針(原案)のとおり継続でよいと判断される。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
沿線の人口は減少傾向ですが、自動車保有台数は増加しており、自動車への依存度が高まっている。H5年には姫路城が世界文化遺産に指定され、観光入り込み客数が増加傾向にある。	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
現在までに用地取得は約30%完了。今後残る区間の用地買収及び工事進捗を図る。	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
引き続き事業を推進し、早期の供用を目指す。	
施設の構造や工法の変更等	
事業実施にあたり、橋梁のライフサイクルコストの検討や新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	
以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

## 再評価結果(平成22年度事業継続箇所)

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

<b>事業名</b> 一般国道29号 <small>ひめじきた</small> 姫路北バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 近畿地方整備局
<b>起終点</b> 自：兵庫県姫路市相野 至：兵庫県姫路市林田町六九谷	<b>延長</b> 6.2km	

**事業概要図**

**【位置図】**



**【概要図】**

